

我が国のリゾート地域整備計画に関する基礎的研究

大阪市立大学 工学部 学生員 ○山本邦治
 大阪市立大学 工学部 正 員 西村 昂
 大阪市立大学 工学部 正 員 日野泰雄

1. はじめに

総合保養地域整備法（リゾート法）の施行と共に始まった我が国のリゾート開発は、社会情勢の変化により早くも試練を迎えている。国土庁の研究会でもこれまでの大規模・高級指向の開発を改め、自治体中心による家族型の多様な小規模リゾートの整備を求める報告がなされ、そのモデルづくりが検討されている。

本稿は各自治体のリゾート地域における社会資本整備の際の計画手法のモデル化を試みる前段階として、リゾート地域整備計画の規模や特色等の現況をマクロ的に把握しようとするものである。

2. 各県のリゾート整備計画の現況

各自治体の計画の現況把握のため、整備構想の公表されている45都道府県の担当課に対し、1992年7月（一部は同年10月）に以下の①～⑤のような項目でアンケート調査を実施し、39都府県より回答を得た。そのうちリゾート法に基づく構想を持つ36府県を表-1に示す。①リゾート整備計画の進行状況。②計画推進のための庁内連絡組織、官民協議会の設置の有無。③近年の社会情勢の変化による計画見直しの有無。④リゾート整備構想における交通基盤への投資額とその全体に対する割合。⑤交通施設以外の公共施設整備の内容。

これらに対する 表-1 36府県の「基本構想」（回答分のみ）
 回答の概要を以下にまとめる。

①9割が概ね順調に計画が進行中と回答している。

②庁内連絡組織を設けているのが、36ケース中26。官民協議会が同11。これらの他、関係

自治体連絡組織を21ケースが設置している。

③2ケースを除いて、調査時点における計画の見直しや変更は認められない。

④交通基盤整備に関連する項目については、リゾート整備の枠で集計していないためにほとんど無回答であった。

⑤公共投資による基盤整備については「総合保養地域整備に関する基本構想」（以下「基本構想」）により集計したところ、過半数のケースで道路、農道、林道、空港、港湾、漁港、海岸、河川、ダム、砂防、公園、下水道、農業集落排水の各施設が整備対象となっており、中でも道路、農道、河川、公園について全ケースで対象となっている。

特定地域と重点整備地区の規模についても「基本構想」に基づいて整理すると図-1のようになる。特定地域面積は平均14.9万ha（17市町村）、重点整備地区は平均1.96万ha（7.3地区）で、大半が6～9箇所の重点整備地区を設けている。

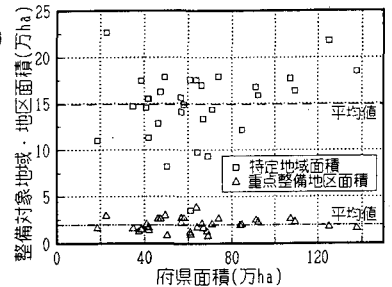


図-1 特定地域・重点整備地区の面積

府県名	基本構想名	承認年月	府県名	基本構想名	承認年月
福島	会津フレッシュリゾート構想	1988. 7	青森	津軽岩木リゾート構想	1990. 6
宮崎	宮崎・日南海岸総合保養地域	"	熊本	天草海洋リゾート基地建設構想	"
三重	国際リゾート「三重サンベルトゾーン」構想	"	愛媛	えひめ瀬戸内リゾート開発構想	"
兵庫	淡路島リゾート構想	1988.10	香川	瀬戸内・サンリゾート構想	1990.12
栃木	日光・那須リゾートライン構想	"	滋賀	琵琶湖リゾートネックレス構想	"
群馬	ぐんまりフレッシュ高原リゾート構想	1988.12	和歌山	「燦」黒潮リゾート構想	"
新潟	雪と緑のふるさと「マリンリゾート新潟」構想	"	愛知	三河湾地域リゾート構想	1991. 3
埼玉	秩父リゾート地域整備構想	1989. 3	山梨	山梨ハーベストリゾート構想	"
秋田	北緯40° シーズナルリゾートあきた構想	"	島根	島根中央地域リゾート構想	"
千葉	房総リゾート地域整備構想	1989. 4	沖縄	沖縄トロピカルリゾート構想	1991.11
広島	ナガサキ・エキゾチック・リゾート構想	"	山形	蔵王・月山地域リゾート構想	1991.12
長島	瀬戸内中央リゾート構想	1989. 6	高知	土佐浜街道リゾート構想	"
大分	別府くじゅうリゾート構想	1989.10	鳥取	ふるさと大山ふれあいリゾート構想	"
京都	丹後リゾート構想	"	茨城	茨城・きらめき・リゾート構想	1992. 9
長野	「フレッシュ信州」千曲川高原リゾート構想	1990. 2	鹿児島	鹿児島サン・オーシャン・リゾート構想	1992.10
宮城	豊崎・船形リゾートリゾート・オアシス21構想	1990. 3	静岡	にっぽんリゾート・ふじの国	1993. 2
石川	南加賀・白山麓総合保養地域整備構想	"	山口	サザンセト・サンシャインリゾート構想	"
福井	奥越高原リゾート構想	1990. 5	岡山	蒜山美作リゾート構想	未承認

3. 重点整備地区の特性

アンケート調査の結果を通じて、リゾート法に基づく整備の動向に大きな変化のないこと、また各計画における整備対象規模などにも大差のないことがわかった。そこで、次に各構想の種類と位置づけを知るため、「基本構想」が収集できた34府県の254地区のデータを分析し、分類を試みることにした。

まず「基本構想」の「重点整備地区の区域設定及び当該区域ごとの整備の方針に関する事項」から各地区を特徴づけるキーワードを抽出して、54のカテゴリに整理し、それぞれ該当する地区数の集計した(表-2)。これによると1/3の地区が海浜を対象とし、1/5の地区が山間部に位置することがわかる。また3割の地区に温泉があり、昨今供給過剰といわれるゴルフ場が過半数の地区に計画されている。

次に数量化理論Ⅲ類を用いて、分類要因軸を求めた。大きい順に4つの固有値に対応する分類要因軸を1～4軸とし、表-3に示す各軸のカテゴリ数量に基づく配列から、各軸の意味付けを行った。これより1軸は-(マイナス)側に漁村、水族館、海水浴場、+(プラス)側に農山村、森林公園、スキー場が並ぶことから海浜型・山間型を表す軸であると考えられる。同様にそれぞれ2軸は施設滞在型(-)・自然周遊型(+)3軸は産業活性型(-)・自然依存型(+)、4軸は体験・スポーツ型(-)・文化教養型(+)を示す軸であると考えられる。1-2軸、3-4軸座標の散布図はそれぞれ図-2、図-3のようになり、原点より遠くへプロットされるほど該当する軸の意味合いが強まる。1軸によって全地区はほぼ二分され、山間型よりの地区には似通ったものが多い反面、海浜型よりはばらつきがみられる。また3-4軸に関しては、原点付近に集中しているものの、4軸の文化・教養型方向

表-2 地域特性カテゴリ

(「基本構想」におけるキーワード)

大分類	小分類	地区の特色、機能、整備方針	地区割合
地域型 デジナル	1	山岳、高原	63 24.8
	2	丘陵、田園	47 18.5
	3	海岸、島	35 13.4
	4	溪谷、秘境	18 7.1
	5	湖沼、ダム湖	41 16.1
	6	農山村	19 7.5
	7	漁村	17 6.7
	8	史跡、歴史的町並み	41 16.1
	9	伝統文化、伝統工芸・産業	32 12.6
	10	神社仏閣、霊場・行場	26 10.2
	11	温泉	73 28.7
	12	先端技術産業・研究施設	19 7.5
	13	都市近郊	42 16.5
商業 施設	14	ショッピング・モール・デパート	44 17.3
	15	地域物産販売施設、観光魚市	34 13.4
	16	レストラン、特産食品加工場	46 18.1
宿泊 保養 施設	17	従来型宿泊施設(お泊、旅館等)	141 55.5
	18	滞在型宿泊施設(貸別荘他)	97 38.2
	19	健康回復施設、福祉医療施設	87 34.3
教養 文化 施設	20	博物館、美術館、資料館等	74 29.1
	21	音楽ホール、劇場	31 12.2
	22	会議・コパ・ソコ施設、展示場	61 24.0
	23	研修、合宿施設・研究施設	75 29.5
	24	文化体験学習施設	68 26.8
	25	野外音楽堂、多目的広場等	45 17.7
	26	遊歩道、公園、展望施設等	67 26.4
	27	テーマパーク、レジャーセンター	62 24.4
	28	庭園、花畑、植物園、温室	55 21.7
	29	観光農園・果樹園・山菜園	89 35.0
	30	観光牧場、動物広場、動物園	64 25.2
スポーツ レクリエーション 施設	31	水族館、海中公園	42 16.5
	32	観光漁業	38 15.0
	33	自然観察・体験学習施設	69 27.2
	34	キャンプ場、バーベキュー施設等	97 38.2
	35	森林公園、森林浴施設	73 28.7
	36	アスレチック・OL・ハイキング・登山コース	60 23.6
	37	屋内体育(水泳を除く)施設	49 19.3
	38	屋内外プール	36 14.2
	39	ゴルフ場・練習場	131 51.6
	40	スキー場	103 40.6
	41	テニスコート	94 37.0
	42	乗馬施設	62 24.4
	43	サウナ・ユース・サウナ・施設	56 22.0
	44	モーターボート施設	50 19.7
	45	他の陸上スポーツ施設・競馬場	77 30.3
	46	スキー・ソリ施設	56 22.0
	47	水上スポーツ施設	80 31.5
	48	海・湖・浴場、親木広場	115 45.3
	49	釣り場	80 31.5
	50	ボート・遊覧船等利用施設	106 41.7
他	51	遊覧船	63 24.8
	52	ボート・遊覧	63 24.8
	53	祭・定期イベント	82 32.3
	54	外国来訪	70 27.6

注)「割合」は254地区中に占める割合(%)

表-3 カテゴリ配列

	1軸	2軸	3軸	4軸
(-)	7	13	32	52
	32	42	7	37
↑	31	22	15	12
	47	14	16	30
	3	21	38	48
	50	12	42	47
	15	8	30	16
	48	54	8	36
	13	27	41	42
	51	41	45	31
	49	37	9	1
	14	39	49	45
	17	46	1	46
	27	45	46	34
	8	24	18	41
	12	53	14	25
	22	1	40	3
	52	17	39	17
	16	20	11	40
	20	18	29	29
	26	25	37	23
	54	40	50	33
	23	2	19	38
	21	23	3	39
	53	9	52	35
	18	50	36	49
	19	31	28	43
	25	28	17	50
	46	44	24	18
	29	3	20	6
	11	52	54	13
	43	16	34	22
	39	15	21	44
	38	26	26	26
	9	38	25	19
	28	10	35	32
	33	34	6	5
	34	19	12	2
	24	48	53	28
	2	43	33	11
	41	30	27	14
	44	47	48	21
	5	11	23	20
	37	36	44	53
	45	29	2	27
	30	5	13	54
	10	51	47	24
	42	33	4	51
	36	49	22	15
	1	35	51	7
	40	32	5	8
	35	4	31	10
	4	6	10	4
↓	6	7	43	9

注)二重線はカテゴリ数量が0となる位置

に広い散らばりがある。

4. まとめと今後の課題

全国横並びの開発と批判されるように、各自治体の計画規模は一様で、重点整備地区の分析においても大半が似通った特性を示しているが、分類軸によっては個性的な地区も少なくない。実際の明確なグループ分けは1軸の地理的要因によるものだけにとどまったが、4つの軸の意味の組み合わせでリゾート整備の特性を16通りに分類できた。今後は、データの補完とカテゴリの充実を図り、分類要因軸をより吟味して分類したリゾート整備の特性ごとに、行政サイドの整備計画手法のモデル化を試みたい。

最後に、アンケートにご協力頂いた各都府県の担当者の方々に感謝の意を表したい。

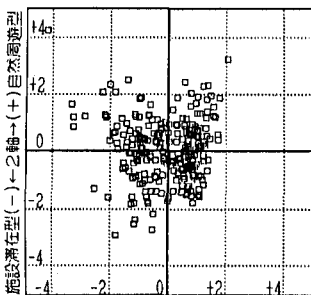


図-2 1-2軸散布図

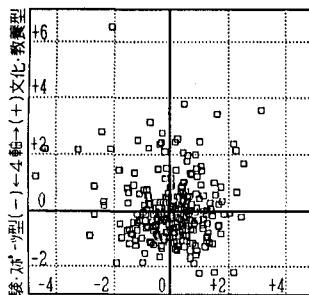


図-3 3-4軸散布図